

第10章 社会貢献

1. 大学・学部の社会貢献

(1) 社会への貢献

a. 公開講座

〔達成目標〕

1 公開講座等を充実させ、大学の持つ知識資源を地域社会等に公開し、還元する。

〔現状説明〕

本学における公開講座は、2001（平成13）年の旧生涯学習センター（現エクステンションセンター）設立以前から多様な形態で実施されており、大学を広く社会に開放する事業として取り組んできた。

現在、エクステンションセンターの行う社会貢献事業の中心となっているのは、公開講座による地域住民への学習機会の提供である。公開講座は、「オープンカレッジ」と「水戸夕学講座」の2系統からなり、オープンカレッジは大学のある見和キャンパスの他、水戸駅前のサテライト校、中心市街地にある大型百貨店内教室、常磐大学高等学校内の4箇所で開催されている。プログラムは、7分野（教養講座、語学講座、パソコン講座、資格対策講座、職業人講座、小中高生講座、特別講座）で構成され、各分野ともその殆どが本学の教員（非常勤、併設の常磐短期大学を含む）が講師として展開している。水戸夕学講座は、学校法人慶應義塾の社会人教育機関である慶應丸の内シティキャンパスが実施している定例講演会『夕学五十講』をサテライト（衛星）配信を用いて、水戸の地でリアルタイムに受講する新しいタイプの講演会である。本文最後にオープンカレッジと水戸夕学講座の2006（平成18）年度に実施した講座を例に挙げている。（第10章 資料1）

〔点検・評価〕

・公開講座プログラム

現在実施されているオープンカレッジの多くは、一方的な知識の伝達に終わる傾向にある。テーマの設定も概説的なことが多く、体系的な講座編成も成されていない。いわゆる一般大衆に受けることを意識した設定となっていることは、ある意味で反省するべきところである。一般大衆が欲する生涯学習活動に加えて、行政や民間のカルチャーセンターとは一線を画した社会人教育、知的教育を高等教育機関である大学という立場から担当しなければならない。水戸夕学講座は、東京丸の内からサテライト配信を通じて、第一線で活躍する大学人や企業人が講師となった質の高いプログラムを展開している。主にビジネス系教養講座が中心であり、経営者やビジネスパーソンなどの地域の方々から高い評価を得ており、個々の自己啓発や資質向上、地域経済の活性化に向けた付加価値の高い情報提供の機会となっている。

・運営経費

エクステンションセンターは、本学を代表する社会貢献活動の一つの機関であるが、そういった性格であるがゆえに、大学の持つ社会的使命や責任から定数の半数に満たない講座を開講するなど採算外で努力してきた面もある。しかしながら、今後は事業の運営資金の殆どが学納金によって賄われていることを考えた場合、いかに大学の社会貢献・大学開放といえども、採算を無視しての事業展開は将来的には財政面を圧迫し、事業そのものの質の低下や存続も危うくすることになる。これからは、恒常的に財政面での健全な運営が課題として検討されなければならない。

〔改善方策〕

・魅力あるプログラムづくり

「公開講座等を充実させ、大学の持つ知識資源を地域社会等に公開し、還元する。」という目標を達成するためには、より充実した魅力あるプログラムを提供する必要がある。地域共有の教育資源である大学として、大学らしい現代的な社会人教育を展開しなければならない。専門的で体系的なプログラムを提供していくには、これまでのように企画立案をエクステンションセンターが単独で行うのではなく、学内にプログラムを検討し企画立案を行う専門委員会等が必要である。そうした検討機関が組織されることにより、これまでと違った形態の質の高い充実したプログラムを提供できるようになる。加えて、本学の母体である学校法人常磐大学には本学の他、幼稚園、高等学校、短期大学、大学院、研究所、各センター等が設置され、まだ活用されていない人的資源・知的資源が豊富にある。それらの組織とも協働し相互協力を図りながら、地域とのかかわりを一層深めていきたいと考える。

・経営の発想を取り入れた公開講座運営

先に述べたとおり、今後の公開講座の運営にあたっては、受講料収入が運営にかかわる支出をできるだけ上回るような事業内容とすることが求められる。損益分岐を明確にし、運営にかかわるバランスシートを意識しながら、社会的ニーズの高い講座を企画しなければならない。講師人件費等の経費と受講料収入、効率のよいセールスプロモーションを展開し、より収益性の高い講座の開発に重点を置く必要がある。公開講座の運営に関わる収支の改善をいかに図るかということが、今後のエクステンションセンターの大きな課題となる。講座数の増加にともない収入も増加しているが、イコール収益増という構図にはいたっていない。この現象の構造的要因を考えた場合に言えることは、講座増によって講座運営にかかわる諸経費が増大し、収支の状況が悪化していくということであり、単なる収入増から無駄を省き効率よく収益増を図る方針への転換が必要である。エクステンションセンターにおける公開講座の運営は、「学校法人常磐大学寄附行為」上、収益事業ではないが、今後は、社会貢献という美名を抱えながらも経営の発想を多く取り入れて運営にあたることが不可欠となる。

b . 地域連携

〔達成目標〕

2 水戸市と本学との地域連携協力協定に基づく活動を拡充するとともに、茨城県や他の周辺自治体との連携協力関係の構築を促進する。

〔現状説明〕

本学は、2005（平成17）年に水戸市と連携協力に関する協定を締結した。本協定は、水戸市と本学との人的・物的資源の活用により、まちづくり、産業、教育等の分野において連携協力し、地域の発展と育成を図ることを目的としており、あらゆる形態の連携を対象としている。現在まで、教員による委員会・協議会等への参画や研修会等講師派遣、学生による市立幼小中の各種学校への教育体験活動・学校支援活動等を行っている。さらに、2006（平成18）年には笠間市、2007（平成19）年には桜川市、那珂市、茨城町との連携協定を締結した。これら市町との協定内容は、基本的には水戸市と同内容での連携を実践している。

〔点検・評価〕

これまで、本学教員による地域政策への助言や協議機関への参画は恒常的に行われてきた。しかし、これらは各教員個人レベルでの活動の色彩が強く、大学として組織的に行われてきたものではなかった。結果的には個人レベルの活動であった場合においても、本学の知的資源・人的資源が地方自治体の政策形成に付与したことに変わりはない。しかし、今後は大学が組織としてそれらに関わることを学内外に対し明確にしなければならない。水戸市および笠間市との連携協力に関する協定を締結したことで、改めて大学として組織的にさまざま形態の連携や貢献を行う基盤が整備されつつあることは評価できる。

〔改善方策〕

2006（平成18）年9月より、エクステンションセンターが地域連携に関する業務全般を担当すること

となった。しかし、組織体制が不十分であり、学部や教員を巻き込んだ連携協力を行う体制が確立されていない。現状、全学的に地域連携を検討し推進する学内組織が存在せず、ある意味で実態がないまま都度対応している。地域連携・貢献が教育・研究と並んで、大学の基本機能として果たすべき重要な役割となったいま、このような姿勢では地域の期待に応えていくことは困難であり、信頼を失うことにもなりかねない。今後、さらに茨城県や他の市町村との連携協力関係を促進するためにも、地域連携を明確に意識した名称を持った地域連携を担当する専門部署の設置とともに、全学的な運営体制の確立が早期に望まれる。

(2) 企業等との連携

〔達成目標〕

3 実績のある寄付講座・受託研究の継続および効果向上と、より活発に産学連携推進のため社会へ本学のシーズ発信を実施していく環境を整備する。

a. 寄付講座および産学連携講座

〔現状説明〕

水戸信用金庫の支援によって、2005(平成17)年度より、本学人間科学部において寄付講座として「地域金融論」と「地域金融システム論」が開講されている。どちらの科目もカリキュラムの中に2年次以上対象、単位2単位ずつで設置されている。科目担当者には、金融機関勤務経験者の非常勤講師を迎え、1セメスター15回開講するうち、3回は水戸信用金庫の現役職員が特別講義として講義を行っている。「地域金融システム論」においては、水戸信用金庫理事長も特別講義のうちの1回を担当する。2007(平成19)年度においては、「地域金融論」49名、「地域金融システム論」46名が履修した。

また、今年度は、茨城県経営者協会との連携により、総合講座の社会系授業科目の1つとして「経済学の世界(地域産業論)」を開講している。この科目は、茨城県を代表する企業経営者や管理者が、地域経済の実態と各社が実践している経営活動等について講義する。2007(平成19)年度における履修者は110名にも上った。

〔点検・評価〕

寄付講座は、2005年度から実施されていることもあり、特色のある科目として定着し、特に金融機関への就職を考えている学生には大変好評で、積極的な履修が伺える。本学は金融機関への就職を望む学生数も比較的多いことから、これらの科目開設は大変有益であると言える。特色として特筆できる点は、普段の講義終了後はもちろん、1科目3回実施される特別講義終了後にも、金融機関のさまざまな話を聞く機会が持てたり、質問に対してすぐに適切な回答が得られ、就職活動前の時点における実務把握にも役立っていることが挙げられる。

産学連携講座においては、現役企業経営者や管理者から直接地域経済や企業経営の話聞くことができ、社会人として必要な心構えや資質、能力を育成することができる。

〔改善方策〕

この3年間で有効性が確認できたことにより、本寄付講座は、来年度から再び3年計画で契約を結ぶ見通しが立っている。

今後さらに効果を挙げていくためには、寄付講座2科目の内容を効率的に吸収するために、財政的な知識を習得できる会計学や簿記論等の科目とのリンクをはり、前提知識を蓄積した上で履修することを検討していくことが必要である。

b. 企業等との受託研究

〔現状説明〕

本学では近年、件数にすると1から2件と小規模ではあるが、契約書を取り交わして受託研究の実施

や指定寄附金を受け入れなど企業等と研究上の連携が図られてきており、2007(平成19)年度は次のような受託研究の契約書が発効され、研究が始まっている。

| | | | |
|-------|---------------------------------|-------|----------|
| 研究依頼者 | (株)ひたちなかテクノセンター | 本学契約者 | 常磐大学学長 |
| 研究担当者 | 国際学部准教授 | 受託研究費 | 525,000円 |
| 契約期間 | 2007年10月1日～2008年2月28日 | | |
| 研究目的 | マーケティングの視点導入による地場ものづくり企業製品の用途開発 | | |
| 研究題目 | ICタグを活用した人員点呼器の用途開発 | | |

本件は、地方公共団体が出資している法人『ひたちなかテクノセンター』社から同准教授に対して、過去2年間以下の研究において成果が収められており、今年度の契約につながっている。

- ・ 2005(平成17)年度
 研究目的「消費者意識・行動の視点導入による地場食品業界の新事業開発」
 研究テーマ「エンドユーザーの視点での地場食品業界の販売戦略」
- ・ 2006(平成18)年度
 研究目的「マーケティングの視点導入による地場ものづくり企業の新商品開発」
 研究テーマ「地場産業の技術を活用した新商品コンセプトの開発」

また、この研究はゼミ学生が市場調査を実施し、アイデアを検討するなど就職活動にもつながる教育効果も期待できる方法で研究をすすめ、その研究成果をひたちなかテクノセンター主催で産学交流事業のために開催している「ひらめきサロン」において発表し、研究結果を受領した企業からは期待以上の内容を得られたと大変好評を得ている。

なお、契約書発効までの事務的なサポートや奨学寄附金を含めた研究費の執行処理事務サポートなどは研究教育支援センターが行っている。

〔点検・評価〕

研究教育支援センターの設置から3年目を迎え、企業等との共同研究および受託研究の申請受付および契約締結、研究費執行事務等も軌道に乗ってきた。

また、小規模でも継続して受託研究等を実施していることで、文系大学においても企業等が成果を得られ、かつ大学にとっても教育効果のある産学連携の方法が見えてきている。産業支援機関である「ひたちなかテクノセンター」に寄せられているニーズなどを分析し、茨城県内の特に県北地域に顕在している製造業者に対して、ものづくりを支援する受託研究等を活発化できる手ごたえを得ている。

〔改善方策〕

受託研究において成果を収める流れまでが整ってきたことにより、成果提供後、企業が提供されたアイデアやコンセプトを活用して商品化することにした場合、必要となる手続きの確認と学内処理の流れを作り、成果利用に関する事務処理がスムーズにできるように整備する必要性が高まってきた。

c. 産学連携推進のためのシーズ発信の準備

〔現状説明〕

これまでに実施してきた受託研究・共同研究・寄付講座等は、全て教員の人脈を頼りに実現したものであり、シーズの発信が整備されてこなかった。現時点では、本学ホームページ上から各学部の科目担当者一覧において教員名を選択すると、簡単な教員紹介が伺えるようになっており、教員によっては独自のホームページリンクを張っている、ということが本学のシーズ発信の現状である。

また、学内に地域連携支援室機能が導入され、水戸市や笠間市を始め地方公共団体との包括協定が結ばれる等産学官連携促進に向けて大学そのものが動き始めている。

〔点検・評価〕

上述の受託研究や、ゼミ単位で企業が求める研究を実施しアイデア提供を行っている実績から、一

部の教員の中にはシーズを発信していく機運が高まっている。しかし、現時点では、協力を求めたい企業等がどのような協力を本学から得られるかわかりやすく紹介するしくみは準備できていない。

〔改善方策〕

水戸市・笠間市との包括協定が結ばれ、周辺地方公共団体との協力関係が強化されつつある今、本学は企業等との連携においても、今後は積極的な姿勢で連携を増加させるしくみづくりが必要である。実際の協定書や契約書発効手続きの経験と企業等との受託研究等の手ごたえを積み重ね、本学のシーズ発信へ向けて、学内のシーズ収集・発信方法構築・学外のニーズの調査・シーズとニーズのマッチングのための催し企画等、整備をさらに進めていく。

2. 大学院の社会貢献

〔達成目標〕

4 大学院研究科の知的・人的・物的財産を現状以上に社会に還元する。

a. 心理臨床センター

〔現状説明〕

人間科学研究科は、心理臨床に携わる専門家を養成する課程（第 領域 臨床心理学）として（財）日本臨床心理士資格認定協会の第2種校の認定を受けている。大学院の研究・教育施設として心理臨床センターがある。心理臨床センターは、心理相談活動を中心に、心理臨床家の育成や心理臨床研究を進めるための機関であるとともに、本学が掲げる“地域に開かれた大学”として、地域の子どもから大人までの幅広い年齢層を対象にカウンセリングを実施している。その一環として、鹿行広域事務組合並びに行方市とメンタルヘルスに関する協定を締結していることなど、地域貢献の役割を果たしている。

〔点検・評価〕

心理臨床センターは、地域のカウンセリング需要に応えている。また上述のメンタルヘルスに関する協定を締結し、対個人だけではなく団体からの包括的な需要にも応えていることは評価に値する。ただし、対応できる教員に限りがあるため限定的なものになっている。また、施設等の認知度が十分ではないため、需要があるにもかかわらずうまく還元できていない。

〔改善方策〕

大学院研究科とアドミッションセンターとの連携を強化し、心理臨床センターの告知活動をより活発に行い、地域社会への還元を果たしていく。

b. 国際被害者学研究所

大学院被害者学研究科と国際被害者学研究所との関係については、144 ページに記されている。

〔現状説明〕

国際被害者学研究所は、被害者学についての国際的視野に立った学際的な研究および教育を行うことを目的として 2003 年 10 月に開設された、アジアで唯一の被害者学を専門に扱う研究機関である。国内外の大学、研究所、政府機関、被害者支援機関と連携をとりながら、被害者学研究と被害者支援に関する情報の中枢機関となることをめざして、複数の研究プロジェクト研究紀要等の出版に取り組んでいる。その傍ら、シンポジウム、セミナー、講演会等を定期的に開催し、被害者学の分野における若手研究者や被害者支援従事者の育成・スキルアップの機会を提供するとともに、図書館機能を併設した施設を一

般市民にも開放し、被害者に関わる問題への理解推進に努めている。2007年度には、独立行政法人国際協力機構（JICA）に応募したプログラムが採択され、2007年度から2009年度の3カ年にわたり事業を受託。発展途上国の行政担当者を対象に、「総合的被害者支援システムの開発」と題した研修事業に取り組み、途上国の被害者施策を担う専門家の育成をサポートしている。また、毎年8月上旬に2週間にわたり開講している世界被害者学会との共催事業「アジア地域大学院コース - 被害者学および被害者援助論」には、国内外から学生、研究者、教員、被害者支援実務家、また被害者当事者や遺族らが講義に参加し、被害者学の基礎から支援の実務、さらに現代的なトピックに関わる被害者の問題について学んでいる。海外から参加する学生にはホームステイを提供し、水戸市内・近郊に住む複数のホストファミリーと協力体制を作り上げ、被害者学を通じた国際交流の場ともなっている。

【点検・評価】

2007年度に開始となったJICA委託事業は、定員10名の研修員を約1ヵ月間に及び本邦研修に招へいし、週ごとにカリキュラムについて評価を得る仕組みとなっている。また、コース終了時には、カリキュラムの構成やコースの運営全般について評価票を提出してもらい、研修員、JICA、本学担当者間で評価会を実施。次回コースへの改善点を具体的に提示、話し合う仕組みとなっている。また、「アジア地域大学院コース - 被害者学および被害者援助論」でも、コース参加者にJICA事業と同様の評価票による点検を実施している。その他、研究所の事業に対する評価については、研究所内の会議にて討議、確認を行う以外、学内で客観的に評価する仕組みがまだでき上がっておらず、今後の課題となっている。

【改善方策】

学外から講師や参加者、研修員を招いて実施する研修やセミナーなどは、その都度、評価票を実施しながら、問題点や改良点がより明確に現れるよう、事後の反省会にて十分に論議をする積み重ねる必要がある。「被害者学」に特化した稀有な研究機関であることから、活動内容の質を高めていくと同時に、活動そのものをより学内外に積極的に知らしめることが重要であり、被害者学・被害者支援に関わる有効な地域資源の一つとして、機能と役割を充実していく手段を、JICA事業のような外部機関との連携も含め、さらに研究所に所属する教職員らで検討、発案していく必要がある。

【第10章 資料1 2006(平成18)年度 公開講座実施状況】

| 番号 | 分野 | 講座名等 | 回数 | 定員 | 受講者 |
|----|----|----------------------------|----|----|-----|
| 1 | 教養 | 茨城の文学と歴史 | 15 | 40 | 40 |
| 2 | 教養 | 松尾芭蕉「奥の細道」をたどる | 10 | 30 | 33 |
| 3 | 教養 | 「風と共に去りぬ」のアメリカ | 5 | 30 | 16 |
| 4 | 教養 | いじめ、児童虐待、配偶者暴力の心理 | 7 | 30 | 12 |
| 5 | 教養 | 実習で学ぶ、臨床心理学の基礎 | 6 | 20 | 19 |
| 6 | 教養 | エクササイズ・ウォーキング | 5 | 20 | 18 |
| 7 | 教養 | 中高年の健康づくり運動 | 4 | 18 | 13 |
| 8 | 教養 | 初心者のための株式投資入門講座 | 6 | 20 | 8 |
| 9 | 教養 | 初心者のための株式投資入門講座 | 6 | 20 | 8 |
| 10 | 教養 | 素人のための資産運用入門講座 | 8 | 20 | 10 |
| 11 | 教養 | 子どもの今と未来 - どう育ち合うか | 3 | 30 | 40 |
| 12 | 教養 | 茨城の文学と歴史 | 15 | 40 | 42 |
| 13 | 教養 | 現代を知る食育講座 | 5 | 30 | 30 |
| 14 | 教養 | イギリスの文化と生活 | 5 | 30 | 12 |
| 15 | 教養 | カナダの文化と生活 | 5 | 30 | 12 |
| 16 | 教養 | 小説嵐が丘 - エミリーブロンテの秘密 | 5 | 30 | 16 |
| 17 | 教養 | 人間関係の心理学 | 7 | 30 | 22 |
| 18 | 教養 | ハリウッド映画の黄金時代 | 5 | 30 | 11 |
| 19 | 教養 | エクササイズウォーキングと健康管理 | 5 | 15 | 15 |
| 20 | 教養 | 遺産と相続の基礎知識 | 2 | 20 | 11 |
| 21 | 教養 | 初心者のための株式投資入門講座 | 3 | 30 | 8 |
| 22 | 語学 | 楽しい英会話 | 10 | 20 | 18 |
| 23 | 語学 | Basic English Conversation | 13 | 20 | 12 |
| 24 | 語学 | 英会話ファーストステップ | 12 | 20 | 10 |
| 25 | 語学 | やり直す英語 | 12 | 20 | 7 |

| | | | | | |
|----|------|----------------------------|----|----|----|
| 26 | 語学 | やり直す英語 | 12 | 20 | 6 |
| 27 | 語学 | 英語発音クリニック | 5 | 12 | 12 |
| 28 | 語学 | 楽しい中国会話 - 初級編 | 10 | 20 | 10 |
| 29 | 語学 | アニョハセヨ！楽しい韓国語会話 | 12 | 20 | 18 |
| 30 | 語学 | アニョハセヨ！はじめての韓国語会話 | 12 | 20 | 14 |
| 31 | 語学 | 楽しい英会話 | 10 | 20 | 19 |
| 32 | 語学 | Basic English Conversation | 13 | 20 | 17 |
| 33 | 語学 | 英会話ファーストステップ | 12 | 20 | 18 |
| 34 | 語学 | 楽しい中国語会話 - 中級編 | 10 | 20 | 22 |
| 35 | 語学 | アニョハセヨ！楽しい韓国語会話 中級編 | 12 | 20 | 10 |
| 36 | 語学 | アニョハセヨ！楽しい韓国語会話 上級編 | 12 | 20 | 17 |
| 37 | 語学 | やり直す英語 | 12 | 20 | 11 |
| 38 | 語学 | やり直す英語 | 12 | 20 | 9 |
| 39 | 語学 | 子育て英会話 | 5 | 20 | 6 |
| 40 | パソコン | やさしいパソコン入門 | 5 | 40 | 29 |
| 41 | パソコン | ワード（ワープロ）入門 | 8 | 40 | 34 |
| 42 | パソコン | エクセル基礎編 | 10 | 40 | 39 |
| 43 | パソコン | エクセル応用編+パワーポイント | 10 | 30 | 22 |
| 44 | パソコン | やさしいパソコン入門 | 5 | 40 | 7 |
| 45 | パソコン | ワード（ワープロ）入門 | 8 | 40 | 9 |
| 46 | パソコン | ワード活用編 | 5 | 40 | 21 |
| 47 | パソコン | エクセル基礎編 | 10 | 40 | 11 |
| 48 | パソコン | エクセル応用編+パワーポイント | 10 | 30 | 11 |
| 49 | パソコン | アクセス基礎編 | 10 | 30 | 7 |
| 50 | 小中高生 | 高校生「英語」サマーセミナー | 20 | 40 | 28 |
| 51 | 小中高生 | 天体観測講座 期 | 1 | 80 | 74 |
| 52 | 小中高生 | 天体観測講座 期 | 1 | 80 | 37 |
| 53 | 小中高生 | 健康体操教室 | 15 | 20 | 12 |

| | | | | | |
|----|------|----------------------------------------|----|----|----|
| 54 | 小中高生 | 天体観測講座 | 1 | 80 | 50 |
| 55 | 職業人 | M&A とファイナンス | 3 | 20 | 21 |
| 56 | 職業人 | マーケティング基礎講座 | 3 | 20 | 15 |
| 57 | 職業人 | 新会社法セミナー | 2 | 20 | 6 |
| 58 | 職業人 | ビジネスパーソンのための法務知識 | 5 | 20 | 12 |
| 59 | 職業人 | 話し方講座 | 2 | 20 | 24 |
| 60 | 資格対策 | 英検準 1 級合格講座 | 10 | 20 | 12 |
| 61 | 資格対策 | 英検 2 級合格講座 | 10 | 20 | 11 |
| 62 | 資格対策 | TOEIC TEST 準備講座 520 点コース | 10 | 20 | 24 |
| 63 | 資格対策 | 秘書検定対策講座 2 級 【4 月開講】 | 12 | 40 | 27 |
| 64 | 資格対策 | 秘書検定対策講座 2 級 【9 月開講】 | 12 | 40 | 15 |
| 65 | 資格対策 | ビジネス能力検定対策講座 3 級 | 14 | 40 | 21 |
| 66 | 資格対策 | 証券外務員試験（二種）対策講座 | 24 | 40 | 22 |
| 67 | 資格対策 | ファイナンシャルプランニング技能士 3 級 | 30 | 40 | 6 |
| 68 | 資格対策 | パソコン検定対策講座 3・4 級 【8 月開講】 | 16 | 40 | 45 |
| 69 | 資格対策 | インテリアコーディネーター試験対策講座 | 30 | 40 | 10 |
| 70 | 資格対策 | 初級システムアドミニストレーター対策講座 | 28 | 30 | 11 |
| 71 | 資格対策 | 医療事務準備講座 | 21 | 40 | 15 |
| 72 | 資格対策 | Microsoft Office Specialist(EXCEL)対策講座 | 12 | 40 | 13 |
| 73 | 資格対策 | 社会福祉士準備講座 | 13 | 70 | 48 |
| 74 | 資格対策 | 英検準 1 級準備講座 | 10 | 20 | 12 |
| 75 | 資格対策 | 英検 2 級準備講座 | 10 | 20 | 16 |
| 76 | 資格対策 | TOEIC TEST 準備講座 620 点目標コース | 12 | 20 | 14 |
| 77 | 資格対策 | 色彩能力検定対策講座 3 級 | 14 | 40 | 18 |
| 78 | 資格対策 | 管理栄養士受験準備講座 | 14 | 70 | 25 |
| 79 | 資格対策 | 初級システムアドミニストレーター対策講座 | 28 | 40 | 4 |
| 80 | 資格対策 | 証券外務員試験（二種）対策講座 | 24 | 40 | 10 |
| 81 | 資格対策 | パソコン検定対策講座 3・4 級 【2 月開講】 | 16 | 40 | 17 |

| | | | | | |
|-------------------|------|------------------------|-----|-------|-------|
| 82 | 資格対策 | パソコン検定対策講座 3・4級 【3月開講】 | 16 | 40 | 20 |
| 83 | 特別 | 二胡と尺八演奏会 | 1 | 50 | 50 |
| 84 | 水戸夕学 | 20の引き出しと仮設思考 | 1 | 100 | 31 |
| 85 | 水戸夕学 | 脳を知り、脳を使いこなす | 1 | 100 | 25 |
| 86 | 水戸夕学 | 会計情報から経営を読み解く | 1 | 100 | 21 |
| 87 | 水戸夕学 | 食育のすすめ～大切なものを失った日本人～ | 1 | 100 | 34 |
| 88 | 水戸夕学 | モチベーションの持論アプローチ | 1 | 100 | 30 |
| 89 | 水戸夕学 | クリエイティビティーのある人生を | 1 | 100 | 25 |
| 90 | 水戸夕学 | 実践的マーケティングセオリー | 1 | 100 | 18 |
| 91 | 水戸夕学 | 日本の外交戦略への提言 | 1 | 100 | 6 |
| 92 | 水戸夕学 | 自分を磨く、自分を拓く | 1 | 100 | 28 |
| 93 | 水戸夕学 | Web新時代の展望新時代の展望 | 1 | 100 | 7 |
| 94 | 水戸夕学 | キャリアと能力の育て方 | 1 | 100 | 21 |
| 95 | 水戸夕学 | 多様な人がいきいきと働く社会を目指して | 1 | 100 | 14 |
| 96 | 水戸夕学 | もう一つの知の在り方 | 1 | 100 | 71 |
| 97 | 水戸夕学 | 佐高信の政経外科 | 1 | 100 | 20 |
| 98 | 水戸夕学 | ポジティブに生きる | 1 | 100 | 18 |
| 2006(平成18)年度 98講座 | | | 864 | 4,085 | 1,936 |